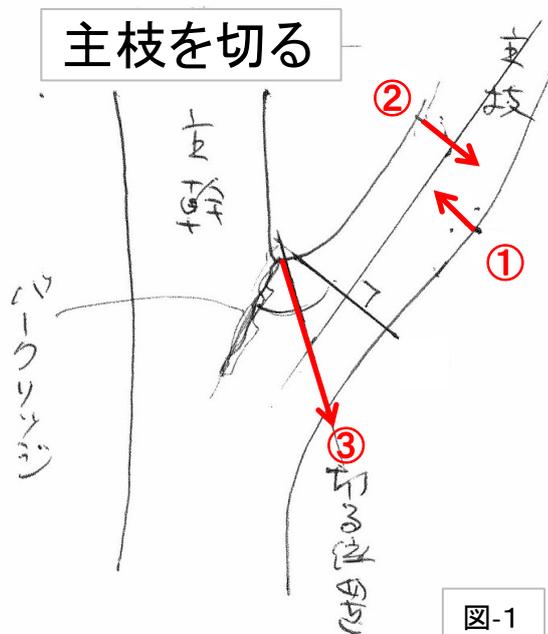


中高木の剪定「主枝・主幹の切り方」のポイント

各所の樹木診断会で、「写真-2」のように枝の途中から枯れている木が散見されます。

「図-1」の切り方をすれば、「写真-1」のように自然と切り口がふさがります。

中高木の剪定を業者に依頼するとき、「図-1」の切り方を指示することをおすすめします。



- ① 切る枝の下側に約1/3程度切れ目を入れる
- ② 上から枝を切り落とす
- ③ パークリッジ(バーク「皮」リッジ「山脈」)と枝の直角線の間角度で切る
- ④ 切り口に保護剤を塗る

主幹・主枝などは独立採算制であり、切り口は光合成産物により修復します。



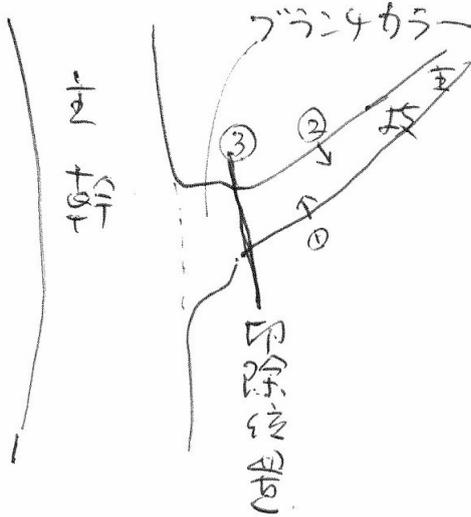
修復のための光合成産物の流れ



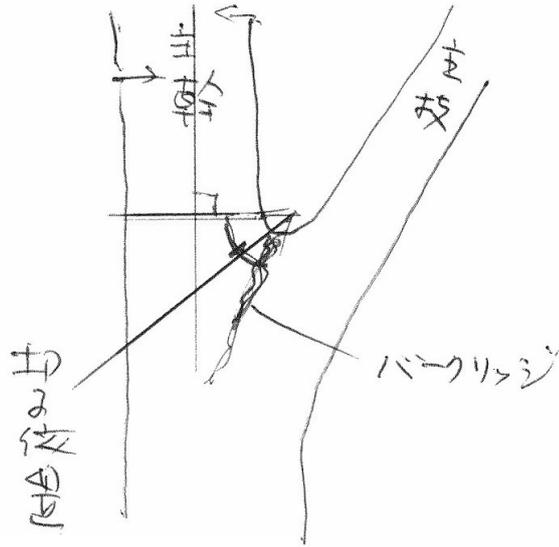
パークリッジ:
(幹と枝が接している箇所に樹皮が寄り集まったような模様の部分)

ブランチカラー:
(幹から太枝が出ている部分で、枝の下の膨らんだ部分)

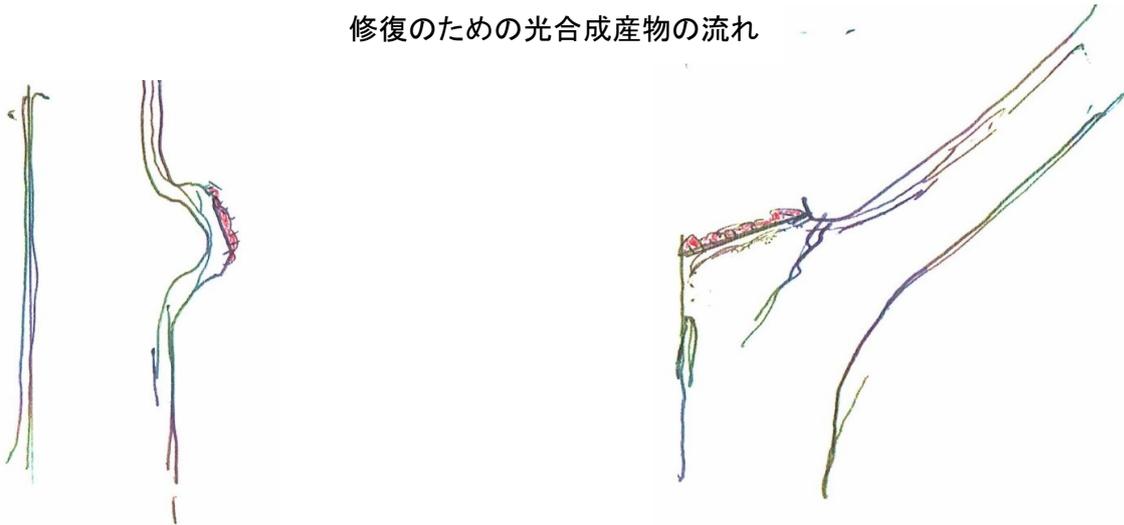
主枝を切る



主幹を切る

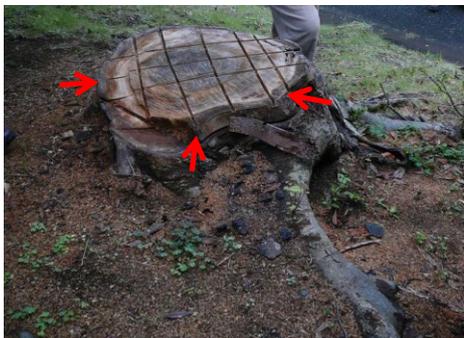


修復のための光合成産物の流れ



※主幹も正しい切り方をすれば、切り口は
光合成産物により修復します。

切株を枯らせる方法(ご参考)



樹木は中心部の心材(死材)と外側の
辺材部分があり、
辺材部に生命活動をつかさどる導管、
形成層、篩管があります。
大木では外側の4cm程度の部分です。

辺材部分に数カ所穴を空け除草剤を
注入れば枯れやすくなります。

問合先：千葉市緑化推進協議会
事務局 Email:c.ryokkasuisin@gmail.com